

# ふれあい生きがい学級 視察研修旅行記



やがいも「コナ  
フブキ」や製造  
工程について  
説明をいただ  
き、学級生は真

7月27日(金)午前10時、学級  
生23名を乗せたバスは一路斜里  
方面へ。休憩、食事を挟みながら

剣に耳を傾け、時折質問などもし  
ていました。そしてお楽しみの試  
飲コーナーへ。

最初の停車地は「小清水原生花園」。



花の多い時期ではありませんで  
したが、園内を散策したり、買  
物をしたりソフトクリームを食  
べたり、思い思いに過していら  
やいました。

次の目的地は「清里町焼酎事業  
所」。ここでは珍しい「じゃがい  
も」を原料に焼酎を製造してい  
ます。まず事業所の方から工場内を  
案内していただき原料となるじ



様々な焼酎が並べてあるのですが、  
その中でも「北緯4度」はアルコ  
ール度数がその名のとおり4度。  
のどを強烈な刺激が襲います…

その後行程に余裕ができたため、  
地元の方に教えていただいた「さ  
くらの滝」へ。ここはサクラマス  
が遡上すると有名で、この日もた  
くさんのサクラマスが滝を越える  
姿を見せてくれました。  
一日目の最後を締めくくるのは

「第30回しれとこ斜里ねぶた」。  
斜里の目抜き通りを大小の扇ねぶ  
たが練り歩きます。

江戸時代、北方警備に訪れた津  
軽藩士の多くが寒さと栄養不足に  
より命を落とした史実に基づき、  
昭和48年に慰霊碑を建立、慰霊祭  
実施してきたことが縁で、斜里町  
と青森県弘前市が友好都市となり、  
門外不出であった「弘前ねぶた」  
が斜里町に伝授されました。



大小様々なねぶたと、町をあげ  
て子どもから大人まで参加し練り  
歩く光景はとても迫力があり、沿  
道にはたくさんの方が詰め掛けに  
ぎわいを見せていました。

二日目に訪れた「北のアルプ美  
術館」は斜里町内の住宅地の一角



に佇み、様々な作品の展示ととも  
に、今年6月に哲学者串田孫一氏  
の仕事場が移築・復元され展示さ  
れているなど、学級生も時間いっ  
ぱいに鑑賞を楽しんでいました。

その後美幌峠、北見市を經由し  
帰宅。二日間、大変暑い中での視  
察研修旅行でしたがみなさん元氣  
に行程を過していただきました。

ふれあい生きがい学級ではその  
他様々な活動を行っておりますの  
で、興味のある方は学級生もしく  
は事務局までお問合せ下さい。

●文責 教育委員会社会教育係  
(事務局) 村田 俊裕



滝上町外国語指導助手

# Jon's コーナー

今回は、先日日本の結婚式に初めて参加したというジョンに、アメリカの結婚式について教えてください！

最近、日本の結婚披露宴に参加しました。今日は基督教の結婚式について紹介したいと思います。

まず、もちろん教会で行われます。大きい式と小さい式があり、伝統的な長い結婚式と20分ぐらいのラスベガス結婚式もあります。普段は新郎と新婦の一番大切な友達と家族を誘います。新郎の家族は右側に座って、新婦の家族は左側です。

結婚式の始まりは神父と新郎が前に立つことでわかります。そして、ブライズメイド（新婦付添い人、新婦の一番大切な友達）とグルムズマン（新郎付添い人、新郎の一番大切な友達）が通路の後ろから前に歩いてきます。次に一人の男の子が新婦の指輪を持って歩き、それを追いかけて一人の女の子が花びらを落としながら歩いてきます。最後に新婦とそのお父さんが一緒に入場します。



結婚式が終わったら、別の会場で結婚披露宴を行います。そのまま行く人もいれば、カジュアルな服に着替えて出席する人もいます。そこで夕食を食べてから夫婦はケーキを切って、手でお互いに食べさせます。それからいろいろなイベントなどを行います。例えば、DJがいれば夫婦は最初のダンスをして、二人ずつ皆が参加します。もう一つは未婚の女性が集まって、新婦は目を閉じてブーケを後ろに投げる。ブーケをキャッチした女性は次に結婚するといわれています。

木綿などの生地を何枚も何枚も重ねて細かく刺して作っています。開墾地には切り株が残り、笹の根も茎も出ていますから底は特に厚く作られていました。この足袋を作るのは女の人の大事な仕事で、夜遅くまで刺したといわれています。ゴム底の丈夫な「地下足袋」が returning して女の人はこの刺し子仕事から解放されました。

この開墾足袋は明治45年二区に入地された方が開拓の思い出に



## おぐり アイ 小栗EYE

郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます！

原始林を開墾するには、丈夫な履き物が必要でした。



### ◆開墾足袋

と、大切に持っておられたものです。



開墾足袋は

何ヶ所も破れており、破れ目からは入った土が見えます。この足袋を見ると、斧と鋸と島田鍬とで原始林に挑んだ昔の人の苦勞が偲ばれます。

### ◆「滝上新聞」を探しています！

郷土館収蔵品の「滝上新聞」に欠号があるため、お持ちの方を探しています。寄贈頂ける方は郷土館までご連絡をお願いします。

電話 29・3499

(月・火曜日休館)